

- 1 審議会名 令和5年度 第3回安曇野市子ども・子育て会議
- 2 日 時 令和6年3月13日(水) 午前10時00分から午前11時30分まで
- 3 会 場 南安曇教育文化会館2階会議室
- 4 出席者 丸山委員、宮澤委員、大澤(克)委員、松下委員、森岡委員、平沢委員、米倉委員、酒井委員、大澤(美)委員、赤沼委員、中島委員、牟禮委員、高田委員
- 5 市側出席者 白井教育指導室長、市川健康支援担当係長、橋詰健康推進担当係長、青嶋保育幼稚園係長、古畑子ども家庭支援課長補佐、高橋子ども発達支援相談室長、赤羽子ども家庭支援課長補佐、林子子ども子育て政策係主査
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 1人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 令和6年3月15日

協 議 事 項 等

I 会議の概要

- 1 開 会
  - 2 会長あいさつ
  - 3 議事事項
    - (1) 地域型保育事業の認可及び確認について
    - (2) 子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査の中間報告について
    - (3) 今後の子ども・子育て支援計画策定スケジュールについて
    - (4) その他
  - 4 閉 会
- .....

II 協議概要

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
 

会長より開会のご挨拶をいただいた。
- 3 議事事項
  - (1) 地域型保育事業の認可及び確認について (資料1)
 

資料1を使用して赤羽補佐より申請のあった地域型保育事業の概要について説明。

(会長)

これを認めるということで良いか。異議がないようなので承認する。
  - (2) 子ども・子育て支援計画策定のためのニーズ調査について (資料2・3)
 

委託事業者の特定非営利活動法人 SCOP より、資料2・3を使用して、安曇野市の子ども・保護者を取り巻く環境、家庭の生活状況、就労状況等について説明。

(会長)

回収率の高さが親の関心の高さを示している。また、小学生の保護者の回答からは、子どもが3人いるという回答が増えていた。安曇野市では、少子化は国よりも緩やかになっている可能性がある。

各委員からも、気づいたことや感想などを発言して欲しい。

(委員)

育休について。私の会社でも男性が直近の3年間で積極的に取得するようになってきた。家庭の状況にあわせて2週間から1カ月程取得することが多い。雰囲気大切で、一部の人が取り始めたら、それに続く人が急激に増えた。会社側としても、1人目よりも2人目のほうが母親にとって大変であることなどから、どの場合にもどのくらいの期間を取得させればよいか分かってきた。雰囲気をつくるのが大切なので、

市の広報などで、男性育休の取得期間等を発信することが必要ではないか。

(会長)

5年前よりも男性の育休取得は増えたが、まだ、それほど定着してはいないので、3人目の場合に1か月取得した人の割合等の情報を発信することは有効だと思う。ほかはないか。

(委員)

母親の就労状況について、フルタイム勤務の割合が増えている。物価高や経済的な苦しさが一因ではないか。フルタイム勤務の需要が増えてきているので。フルタイムの子育て世帯に向けた支援についても市の方で考えて欲しい。

(会長)

物価上昇はあるし、将来の教育費、年金なども考えて。雇用に関しては、行政ができることもあるのではないかという意見。ほかに、今後の分析の仕方についても希望などもあれば出して欲しい。

(委員)

クロス集計の希望として、ひとり親世帯でもやってくれるか。子どもが多い世帯、多子世帯についてのクロスも考えて欲しい。

(SCOP)

ひとり親世帯は対応する予定。多子世帯も設問によって有効なものを検討する必要があるが、実施することは可能。

(会長)

育児休暇をとっている父親の子どもの数なども確認できると興味深い。

(委員)

父親が働けない場合の世帯収入が心配なため、そのような家庭の収入も確認するべき。

(会長)

父親の子どもの数なども確認できると興味深い。これらの意見も踏まえて、この先の集計をお願いしたい。

## (2) 子ども・子育て支援計画策定のためのニーズ調査について (資料4)

委託事業者の特定非営利活動法人 SCOP より、資料4を使用して、計画の位置づけ、今後の調査・検討の方法等について説明。

(委員)

今回の計画と市町村こども計画との関係はどのようなものか。本計画が土台になるイメージか。

(事務局)

市町村こども計画は、努力義務の計画である。現在、市では策定する予定は確定していないが、策定する必要に迫られていると認識している。その場合は、子どもの貧困対策と若者支援策に関する計画を追加的に策定する必要があるが、子ども・子育て支援事業計画と、これらを同時期に進めるのは難しいという判断がある。まずは、子ども子育て支援事業計画をしっかりと立て、この後に、残りの要素をつくることになるのではないかと考えている。

(委員)

こども家庭支援センターは設置するのか。どのくらいの需要を見込むのかは考え方で変わってくる。現在

は、必要な人が申し込む「申請主義」だが、これからはより積極的に施策の対象となる人を取り込む方向に変わって行くべきだと思う。

(事務局)

本日は担当が不在のため、詳細はわからないが、令和6年の設置を予定していると聞いている。このため、計画の中には書き込むことになる。ニーズ量をどのように予想するのかについても計画の中で見込んでいく。

(委員)

ショートステイの関係も大改正がある。母親と子供が一緒に使えるとか、子ども自身の希望でできる、という国の動きもある。どのように対応するか。

(事務局)

同じく担当者不在のため詳細は申し上げられないが、国の方針を踏まえて、市としてどこまでやれるか、検討していきたいと思っている。

(委員)

こどもの意見収集について。参加する子どもを集めるための手段として、公募を広報にのせるのか。

(事務局)

広報、HP、児童館などの方法を中心に、できる方法を検討して広報していきたい。

(委員)

普通の小学生は市の広報を読まない。案件に興味のある意識の高い子どもや、親や教師などから参加を勧められる子ども、いわゆる「選ばれた子ども」ばかりにならないように。幅広い層に簡単なアンケートで聞くとか。子ども達の声を。形だけではないように、吸い上げてほしい。

(委員)

学校としては、まだ内容がわからないため、現時点では何とも言えないが、「選ばれた子ども」ではなく、幅広い子どもに参加の機会がある形にしていくべきである。

### (3) 今後の子ども・子育て支援計画策定スケジュールについて 資料5

事務局より、資料5を使用して、策定スケジュールについて。

(委員)

子ども対象のパブリックコメントについても検討して頂きたい。こども大綱の際には実施されていた。計画は保護者対象なので難しいかもしれないが、考えてみて欲しい。

(事務局)

国が行った意見聴取方法についても確認し、どのようにしていくか検討したい。

### (4) その他

事務局より、事務連絡。

(事務局)

次回は5月中旬を予定している。所属機関によっては推薦者が変わる場合があると想定している。今月下旬には書類を所属機関宛てに送るので、変更がある場合は改めて選出し、推薦書を提出願いたい。

また、卓上に、新たな子育てガイドブックを配布している。2024年度版。特集ページに公園ガイドをつかった。スマートフォンでQRコードを読み込むことで、WEBに飛んで詳細が見えるように工夫した。

(委員)

このガイドブックの配布方法はどのようなものか。孫の世話をしている人の手にも届くといい。

(事務局)

保育施設と子ども関係の施設を中心に置く予定。子育て世代の転入者や妊娠届の提出者にも渡す予定。また、内容をWEBにも載せていく。

#### 4 閉会

(副会長)

貴重なご意見沢山いただきありがとうございました。

以上をもって、令和5年度第3回安曇野市子ども・子育て会議を終了します。